



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



南總里見八犬傳第三輯卷之四

東都
曲亭主人
編次

第廿七回

左母二郎夜新人を累奪せし
寂寔道人見ふ圓塚より火定に

綱乾左母二郎ハその夜さ。神宮の夜風ハ冒されん詰旦より寒熱せし
 此の日ハハ習子成て中久し夕飯もたふどうち臥さ。かく又その
 次の日乃午の貝吹く比及ハ心地清くあつたりけしハ臥簟を弄め
 々々ぐとや口を漱んとく外面ハ立生ハ官屋敷のくふ當り物乃
 響のゆえさる。年の終りハ煤掃く如しハハ審くあふよるん軀て白邊を
 立ちあがり。間ゆくやんとさる程ほどなれハ一個の莊客右ハ一揆乃
 塾を携。立ハ五六根の夏蘿蔔を引投く草野のひとより来るありけり。

是則別人を慕ふが老僕背めなり。思ふもあらずを思ふて目礼をて
けは左母二郎へおくと。抵抗するも先生おとす。それけは土
用の虫拂常よりあつた物。糸帯帯の覚え。彼へつくと。それけは土
呼れと。ほろふふより。否虫乾ふ。それけは土。今宵宵へへ。天井ある蜘蛛と
搔拂ひ。席薦の塵埃を打度。戸棧の修復障子の張更も。見の儲ふりや
ま。目つと。を廻む。それけは土。か。以。庖厨の混雑。と。商。世。この。蘿蔔。ハ。膽の
料。引。り。く。ま。月。来。の。懇。切。甲。斐。み。資。は。来。ま。せ。と。う。ち。な。大。へ。左。母。二。郎
驚。れ。く。壯。官。の。背。め。へ。彼。犬。塚。信。乃。あ。つ。た。や。彼。人。か。ま。の。朝。啓。行。き。と
ま。う。う。原。来。首。途。の。日。を。延。く。俄。頃。は。管。咽。せ。う。と。欽。と。同。日。果。を。違。り
違。り。信。乃。あ。つ。た。昨。日。の。曉。方。下。総。へ。と。て。赴。き。し。今。宵。宵。も。ほ。ろ。背。殿。ハ。犬
塚。め。あ。つ。た。と。す。え。ま。を。左。母。二。郎。ハ。か。つ。た。顔。色。変。じ。く。その。背。め。を。何

人そ素より約束ありて欽と言ふ。是より一向。元と。背めハ。簪を。杖つ。く。現
理。膽の。漬。を。話。説。ん。僕。中。定。ふ。ま。と。夜。と。背。殿。ハ。陣。代。の。殿。上。め。い。ん。り
ま。と。又。媒。妁。ハ。属。役。ある。軍。木。敷。ま。く。い。ん。聘。礼。物。の。件。も。い。ん。の。程。ふ。贈。ら
れ。ん。書。院。は。飾。を。く。あり。且。密。の。管。咽。を。ま。今。宵。亥。の。比。及。小。背。殿。が。ま。う
う。来。ま。う。と。新。人。御。寮。を。伴。ひ。ま。と。人。の。噂。ふ。せ。を。う。り。氣。の。毒。ある。ハ。犬。塚
め。底。意。地。に。う。れ。伯。母。御。夫。婦。の。機。嫌。を。ま。う。と。九。年。要。緊。の。時。ハ。追。遣。を
ま。う。と。彼。初。物。を。他。人。の。鯉。七。十。五。日。生。延。く。い。ん。口。果。報。の。あ。る。よ。表。液。吸。ふ
づ。れ。日。も。あ。つ。た。と。傷。痛。を。限。り。ま。う。と。彼。人。後。は。使。め。ハ。腹。も。立。ん。口。古。も
茂。ん。項。の。脂。を。ね。と。も。襟。は。著。後。ハ。當。世。を。ま。う。と。も。益。の。長。物。を。ま。う
時。を。殺。し。く。と。う。ん。晩。は。来。ま。せ。と。塾。柄。を。再。び。肩。ふ。ち。掛。く。背。門。を。ま。う
て。ぞ。走。去。ける。左。母。二。郎。ハ。氣。色。を。胸。を。鎮。め。く。さ。う。げ。あ。く。応。を。い。ん。と。氣。ハ

とまぬ細輪の田井小立より汲揚る水も湯と沸ん心の熱をぬく桶
引提るそまふ内は入る吸ち呼憤激嗟嘆と堪られ何せんも中ふ
つどほくといふやう濱路へ信乃は推えり。いひ名つけるとあると飲使は
渠小今妻せらるるは是非あか。そまもる量小龜條がこれふひつるも
あ。然るを何ぞや陣代の勢ひは附く約束を更改し既し密事を委ねる
これをも顧みらん。あふはいぬる日龜條が云云といひるは全く濱路と因
ち。且は彼一刀を掲ぐえさるる為人のありたこの返報も今宵亦誓の
敷上がするといふその席上へ踏み。墓六夫婦が悪事を願ひどひのまふ
取ふ。あ。婚姻の妨せん否め此へハ。且も亦件の刀試掲ぐえさるる支黨
の。且も。加植信乃が刀ハ竊は藏めく。ふ。ふ。ふ。このる。露頭
せ。ハ。罪重か。この計策。可ら。又唯刀の。ハ。母

親が許したる濱路が。成の。正し。證據絶る。や。争ひ。訟れ
とも。その訟を定めん。陣代。難。か。れ。ハ。理あり。も。芳
あ。功。の。上。ハ。必。忌。人。忌。ハ。必。理。を。非。枉。獄。舎。も
繫く。獄。舎。ハ。入。ハ。責。殺。さ。る。この計策。よく。拙。彼。老。婆。奴。が。を
見。越。密。事。を。委。ん。為。の。小。濱。路。を。妻。せ。ん。と。ハ。い。斯。飽。す。で。小。賺
さ。ハ。智。の。足。さ。ハ。似。と。も。その夜。この刀の。奇。特。と。な。れ。ハ
直。融。墓。六。奴。が。刀。を。授。れ。ハ。損。へ。り。け。あ。ま。で。何。も。い。は。さ。バ
彼。奴。ハ。刀。を。信。乃。が。刃。と。思。ひ。十。襲。秘。藏。を。ふ。そ。れ。の
快。愉。と。も。れ。も。亦。男。子。之。月。日。あ。り。ひ。を。か。る。且。仍。り。ふ。せ。よ
そ。母。親。の。云。云。と。い。ひ。濱。路。を。今。更。入。は。娶。ら。と。ハ。里。の。批。評。も
面。あ。せ。る。く。この地。は。住。ひ。可。好。詮。今。宵。宮。六。が。来。る。代。窺。ひ。誓

兄の席の血を伏せ。あつて親子背すゝ一座の奴原塵阿く直ふ他郷へ
走るべし。否これれも拙策あらん彼奴ホハ多勢あり。志を遂げし。捕
捕らるるあつて後悔其知またちか。早く危れ古又成せんより。濱路は
濱路を掻搦ひ。逐電にふよほし。曩小濱路が強顔かり。信乃が
眼前より。今ハ信乃を遠離らる。彼醜郎小妻せり。成秋一
と。ハ。あつて。こ。心得心せ。伴。その故郷を。何で
後。あつて。不信乃。探を。日。成容。ハ。京。録
倉。遊女。金。易。又。この。奇持。あ。持
氏朝臣の重器とゆえ。村雨九。極。これを故主扇谷殿。献ら。成氏
帰系の。と。出。を。あ。護影。呼。又成氏
朝臣は進。せ。信乃。新。町詮華洛へ携上。室町將

軍。軟。召。出。る。疑。二十金の計策。只この一。め。り
町。あ。と。同。答。く。濁江の底。尋思。稍十二金
計。中。竊。独居。あ。あ。人。調度。と。俄頃
要。の。あ。些。の家具衣裳を。これ。路費。と。集。め
小。脚絆。草鞋の外。物。行。装。ハ。整。入。似。く。足。ぬ。この甲夜
闇。進。退。ハ。背。門。より。入。り。彼。未。通。女。を。と。や。誘。引。出。へ。き。斯。と。奪。ひ
去。つ。た。飲。と。尋。思。果。る。の。日。の。暮。や。と。仰。ぐ。天。は。往。方。の。定。め
ち。浮。る。雲。の。不。義。奸。惡。伎。倆。又。暇。あり。け。と。後。濱。路。ハ。既。に。必。死。乃
覺。期。と。氣。色。ハ。顯。さ。げ。假。染。る。病。著。と。炎。暑。ふ。と。素。髪。た。つ。人
後。恥。し。き。姿。と。や。入。と。勸。髪。を。結。く。も。い。ま。臥。房。を。出。さ。し。た
二。初。と。この形勢。今宵の婚姻。推。諱。せ。と。い。ひ。け。心。放。る。黄。氏

賤の水の一雷受るゝとて不二説法。たゞ聖の讀經ゆゑ。成佛を信
 らん今般不物をあつた。と多くもあつた良人の。親同胞のふくはふか
 敷をのろぐ。潜ぶとそれとまのびかひ。むうごうる竊音小まのび故の露
 深。袖う濡る夏草。秋のやふ金と戦ぐめ。さゆ後小左母二郎ハ時刻を
 測りて墓六が背門より潜へんとさる小彼れ由挑灯引提。歩人あり入る
 人あり便ころ。と立退る。あほ外面を彼此と密くうち遠す。母屋の
 背後小立在つはく遠く。あひは八葉櫓の朽るる人。そが根良小犬の出入
 顔より。踏入る小朽る櫓の癪る。とバ。か入る随小廣かり。樹枝の下小身を
 起。く。足の壞を拊落。家内の様子を考ふ。いと暗け。其知とを
 別。く。只左邊る白壁の。鳥夜。あは。のう。ん。え。原。来。さ。ハ。納。戸

の背後より彼上庫の間を遠く。ハ常小濱路が。と。り。小房。遠く。と。そ。う
 らの業内。ハ。く。む。る。孫。と。あ。の。ふ。難。き。と。ハ。あ。つ。と。思。ふ。と。を。心。あ。く。と。
 樹柱を倚り樹下を潜る。く。稍假山の。ほ。と。ま。小。到。ま。ハ。前。面。は。女。子。の。泣。音。と
 ち。驚。ろ。く。透。し。見。つ。つ。い。て。使。く。小。濱。路。あり。天。の。與。と。致。ひ。く。効。あり。と
 近。つ。と。唧。ろ。を。使。く。あ。つ。原。来。濱。路。ハ。今。宵。あり。簾。上。宮。六。を。い。と。く
 嫌。ひ。く。經。え。ん。と。さ。る。あ。や。あ。ん。渠。が。即。操。を。喝。ま。の。信。乃。る。と。れ。致。れ
 る。つ。た。り。定。ふ。使。う。れ。と。け。と。も。大。く。ハ。コ。と。る。と。ハ。誰。め。あ。れ。當。は
 落る真玉を碎んや。さ。と。く。足。を。翹。く。檢。勘。れ。ハ。折。ゆ。う。濱。路。を。や。う
 多。く。松。枝。ハ。掛。る。帶。の。端。ハ。携。く。又。潜。然。と。う。ち。泣。く。涙。の。隙。ハ。念。仏。を
 十。遍。を。り。唱。つ。經。死。人。と。さ。る。程。ハ。声。を。ゆ。う。け。後。方。より。抱。禁。め。く。引
 戻。せ。バ。吐。嗟。と。叫。ぶ。口。小。く。銭。掩。驚。ろ。あ。左。母。あり。左。母。え。と。ひ。う。け。る。と

且、件の小厮ハ喘々走ル。左母二姉の宿所へいゆれ、呼門は心せむを
推開て見ゆ。ハめハさうい調度まゝある中、あゝ空工房小むり。その
為体をみる推せ、逐電をふる不疑ひあり。と告る成實ていゝ。あゝ夫婦ハ
迷恨小堪む。俄頃ハ僕僮們を召聚云云のる。とあれその密夫を
左母二奴あり。遠くハ西の方と。さうある小疾追蒐、引搦来より。汝ハ
る小乗をとも。濱路を捉逃し。そ、灯をみる。あゝ、小這奴ふれ
捕さけん人を追ふハ圍丁をよけ。背みハ老く足ふく。と。今宵を
アハ氣成入とよ。誰ハあは功より。賞錢ハ過分。と。せん。誰と
誰ハ東の方と。彼と彼ハ西の方と。必める。と。西三人を一隊。既ハ四支
部ハ瞬間小恙。出遣てもふ。夫婦ハ心休む。と。龜條ハ頭痛と病て
る。推磨む額を搥ち。る。べ。と。あゝいゆけ。と。裏ハ信乃を禁ん。と。

左母二即を引入とゆれ。さう濱路ハ下をち。外へ。と。我程さ。と。猪
錯へ。偷児の隙護。と。さう。あゝ。悔。と。成。と。け。と。人。を
身。を。と。と。ハ。墓。六。も。亦。嗟。嘆。と。過。り。る。ハ。悔。と。め。と。と。當
今宵の婚姻。と。や。臂。入。は。程。中。形。その折濱路。を。お。と。ま。何。と。い。ん。と
屈託の頭。を。俱。病。と。浩。然。と。土。太。郎。ハ。裏。ハ。墓。六。ハ。相。譚。と。神。宮。何
み。人。と。と。信。乃。を。亡。ん。と。と。と。その水煉。小。敵。と。と。謀。合。期。と。と
分。せ。の。と。と。功。な。れ。ハ。墓。六。これ。を。不。足。と。と。辛。苦。錢。中。多。く。ハ。取。と。と。せ。だ。か。い
土。太。郎。ハ。昨。夕。の。標。滿。ハ。幸。あ。と。と。鐵。鈔。一。丈。中。な。れ。と。と。小。素。より。不。敵。の。癖
昔。と。と。ハ。彼。莊。官。を。豪。求。と。と。此。の。酒。價。を。は。む。と。と。と。と。夕。涼。け。と。訪。ひ
白。小。背。門。と。と。入。と。と。墓。六。と。と。と。と。忽。地。と。と。ろ。小。飲。び。土。太。郎。飲。と。と。折。と
よく。と。と。来。つ。と。と。立。迎。れ。バ。否。と。と。と。と。と。ゆ。り。と。と。い。ぬ。夜。の。辛。苦。錢。相。場。外。で。直。中

あま切く些ハ増酒價をとつ代禁めく。是はさく。そ成今更ふりる。飲又
更めて汝を懸ん今宵ハ不慮の難矣ある。その故ハ箇様とこと辞せし。く
説示し。こが女児をねく走。密夫ハ汝中認まり。神宮河より同船なる。
細乾左母二郎といふの。圖宅の老弱送る。既ハ追捕を蒐く。是も彼ホ
のてで心りと形。今招き。汝が如き資をねる。人ともき幸ひかくて。
こが運る。汝を懸り。とく追禁く。引撮来ハ辛苦銭ハヨ少を論せ。偏惡む
と夫婦。并ぬ。さく相譚ハ。土太郎。やう。うち點頭現今。あへ来ハ途
ふ。豫て相識る。行轎夫加太郎。井太郎。ホ。行客を乗せ。も足を論。
置。こ。さ。昇。揚。され。鳥夜。さ。バ。そ。成。よく。も。足。只。井太郎。あ。め。い。ひ
く。立。休。ふ。過。り。原。来。件。の。行。客。ハ。左。母。二。郎。又。疑。ひ。る。轎。子。ハ。乗。り
。娘。さ。る。人。途。ハ。正。く。礪。川。本。郷。坂。へ。赴。け。ん。い。で。追。禁。ん。と。裾。り。揚。る。

先とも。且。ハ。臺。六。を。遠。く。呼。入。左。母。二。郎。ハ。武。士。の。浪。人。そ。の。本。事。測。り。た。と。
素。も。あ。く。追。ひ。懸。あ。ん。と。の。り。く。ゆ。れ。後。と。押。替。乃。一。刀。を。と。り。あ。く。遠。く。合。て
。賢。小。路。と。さ。で。い。ふ。心。つ。う。翻。ハ。撥。籠。を。瞬。間。ハ。雄。雄。然。り。か。ん。え。酒。暖
め。よ。ち。あ。る。懸。も。や。と。と。と。急。ぐ。夫。婦。を。見。ゆ。め。も。多。甲。夜。間。小。箱
妻。の。滅。る。ゆ。く。走。去。け。り。詔。分。而。頭。寂。寞。直。人。有。柳。と。い。ハ。怪。有。の。行。者。あ。り。る。
原。是。何。四。の。人。氏。あ。る。を。あ。く。去。歳。の。夏。より。陸。奥。出。羽。を。参。縁。今。茲。ハ
下。野。及。下。総。ハ。赴。け。る。遂。ハ。玄。菟。ハ。飛。錫。く。愚。民。ハ。尊。信。せ。れ。り。そ。の。修。法
。當。薪。を。積。く。烈。火。を。踏。む。自。若。と。く。も。足。燒。爛。る。と。あ。く。言。ふ。より。人
の。吉。凶。悔。吝。と。占。ひ。又。病。厄。と。祈。禱。と。も。不。驗。あ。る。と。い。ふ。年。来。吉。野。昔。四。城
。三。熊。野。へ。さ。る。も。駿。河。の。不。二。肥。後。の。阿。蘇。山。薩。摩。の。霧。降。下。野。の。二。荒。山
。出。羽。の。羽。黒。山。あ。く。靈。山。名。勝。を。い。く。遍。と。る。登。陟。し。神。人。異。物。ハ。難。近。し。

寂寞道人肩柳



順寂を
示し
寂寞火元
小自焼を



のく柱とを壇下より廣く穴を穿つ。その廣さ五六間深れと丈餘あり及於
 柴夥投入すとハ虫の跂つた隙あり抑この圓塚山ハ豊嶋本郷の西ハあり
 巽を蒼海杳渺とく。安房上総の盡れをも視るべく西ハ連山嵯峨とく
 宮根足柄富士の雪夏もは寒れありどす所鎌倉海道ありざれども木
 曾路へかゝ順路あり。上総下総へ赴くめ。とて過るを提徑とをさる程ふ
 そや本日もありふ寂寞道人肩柳ハ白布をり頭と包もあらず布の
 淨衣を被く壇の中央より胡床は尻とく。とて一箇の金鈴杖振鳴す。胸より
 一面の明鏡と掛背より一條の輪袈裟と垂く。とて兜巾を載ざりけり。その
 打扮異様あり。親念の眼を閉する。甚麼なる經を讀やあらん朝より
 暮るまで。その音声濁らど濁るをく。小人を視る眼光いと凄し壇下より
 彼此の老弱男女群衆圍繞し。薜蘭山田の邊より人ありぬれもなきふ

頭の上を照らす夏の日れ堪えて、日よなる火定ふりぬれと罵るが、樹下を
 索る聚る由もかりけり。かゝるを、黄昏ちりたるも、豫るあゝ成なるめ
 件の柴は火を放てば燭として燃揚る暑中の猛火は、おそれ惑ひて、壇のわ
 ずあるあゝ散動まゝ退れり。當下肩柳へ經るも果る。平煎金珠を鑪と
 推抹の霎時念はく壇下を直下し。声高き小讀しといく。昔如来の後父弟
 阿難陀の摩揭陀國とてまゝ吠舍釐城は赴たぬや。その王あゝ
 徳茂恋つゝ送代は衣驩し。その一王へこれを追ふ。南岸小堂軍し。その一
 王へこれを迎へ。北岸小来候せり。阿難尊者二王の相争る闘戦殺害せし
 火を起し骸を焚く中より折れたる南岸小墮半。一は北岸は墮半とてめ
 闍諍と禁めぬひれ。その功德廣大あり。この他の道德自燒しと或は之せ

諸仏小献り或ハ衆生済度の方便載リ聖經ニ灼然ニ貪道辱ク三宝ニ
事王勤勞小年を盡ミとも自他の利益ニ普クも愛小恩癡の薄徳ニ
省ミハ速臭骸と解脱シク五垢の淨土小到人と欲を冀ハ有縁の道化
身滅不隨者の財宝を棄捐シて未來永劫の善根を殖シ設夫一錢二
錢を捨るゐる一劫二尊の茲航ニ乗リ人三錢四錢を捨るゐる三藏を
自得シク四難中ハ小易ク一五錢六錢を捨るゐるハ方小五覺の感通シク
六塵を掃除せん七錢八錢を捨るゐるハ七難八苦と出離シク頓生菩提乃撥
圓ハ小人九錢十錢を捨るゐるハ九品の淨刹ト托生シク十界能化の菩薩と
ありん如是の善男女如是の財を捨ミハ身ハ苦海ニ在リと云ふもの
則負寂の同行ナリいふとあるハ五慾の財物を燒却シてその財代を量
の徳奉と播殖シて清果生レバも勸化隨緣愍ミハ平等利益疑ハカ

一と説勸る声の中より群集の老弱火坑を望ミ破落哩と云と擲ハ錢ハ
落花の風ニ隨フ如ク雪吹の窓紙拂ハ似ク幾十百と云の云々云々
錢既ニ投リトハ肩柳自葬の引道ナリ声高ナリ偈を説ク云
西方并釋尊年
擊然發興石火
東土燒道照時
閃々炬燵揚播
言靜相睎十眼
看灰裡結清果
唸誦する云遍阿彌佛ニ猛火の中ハ身を跳ラセテ投入シテ火燄發シ
立沖リ膏沸レ穴焦シ骨中ニめを倏忽ニ灰燼とありテ失ハケリこれをん
衆人ニ感涙を禁メ亦も同音小念佛ニ且ク鳴也止ザリケリカク云々山
寺のハ相の鐘音なる諸行無常の親念也今何のるハ云々云々
云々云々歸去人東西ニ立リ南北ニ散ラセテ述ハ燃ル茶毘の坑許ニ
光也夏虫の火虫の外ハ物ナリ云々云々夜過ク月ナリ云々小挑灯

行轎の傍の窓は結提り引添く歩いそぐく来るのあり。此は別人あるを則
細乾左母三郎あり。嚮ふ濱路を豪奪す。途は行轎を備ひつ。その間道と
乱走く。木曾路を京へへんとく。路を曲る由美村より。この圓塚と過る人
を成昇く二人の轎夫あるは滅残る火定の火光をよる人。間近く扛えん。左母
二郎より対ひ親く。定めの継場へ足賜と退りてん取せぬ人と左右より。
うきと堂をえんく。冷笑ひ仕ふいふく。喫せぬ酒は酔るやん。駒に
の建場をうち越る。板橋をと定めふ。あまて継ぐといふより。あえやいと肯
とぬとあれども。さうと骨を惜むとあらふ。汝を懸む。けし轎をうんを
扶半く。こきりくゆれ後と懷中より。西簾の残る半く。速きを受む。而
人齊一足踏鳴く。くち笑ひ。縛は二百三百の仇銭を取んく。夜行を
くく。あへる。いと艶妖る。臍物を縛か。く。猿鏝狂女。く。偽りてん

い暗めても挑灯の火光は疾視し。眼は違つ。その両刀へ人目を。武士は
打扮拐掣兒已む。く。好る。く。空棒振く。や。還る。息杖一本。酒一
盃。建場は齒の利く板橋の橋を首れ。板の井太郎。その相肩の加太郎と
入ふ。く。蜘蛛冥利掙す。由断る。夜の細は掛る。玉虫を。く。
他は落る。く。く。腰ある盤纏も衣も。脱ぐ。く。く。
訛声高く左右より。く。く。些。騒が。く。く。蚊蚊。耳邊に
附く。物。奪欲く。く。この世の暇。く。く。取せん。と。板打。く。く。被せ。井
刃の電光。右邊に立。く。加太郎。肩を。く。く。仰及。く。く。透を。く。く。井
太郎が。打。く。く。息杖。受。く。く。二三合戦。く。く。加太郎。亦。身。を。起。く。
左右より。引。く。く。野火。を。燭。く。く。く。く。叫。く。く。く。声。井太郎。亦。血。氣。を
衆。く。く。只。管。小。競。へ。く。く。撃。劍。槍。棒。卷。法。を。く。く。一点。く。く。く。く。く。く。動

山前乃黒
夜
四
挑
戦

八天傳三巻卷四

山月堂



左母二郎

井太郎



玉太郎

加太郎

八天傳三巻卷四

山月堂

思も波上へ人をも罵らん。いふが。この本事を見むや。女子をば。夜行と
侮り引剥をせんと計較し。二賊へ既よかの如し。汝も冥土の伴侶。三途の川
舟乗人となら。刃を受ふ。内めを失れ。大刀。凡物ともせむ。死物。死乃
あせ。廣言。息の根。輟んと歎。あ。鐙音。研は響く。凄く。夜の夏山人絶く。
魚さ。声をきめ。草を蹴む。奮撃。突戦。一上一下と。術を竭す。雌
雄へいふ。判さうけ。あ。あ。あ。左母二郎へ。再度の苦戦。猶。疲。勞。れ。
既。浅。瘡。を負。あ。歌。う。う。と。あ。あ。あ。ん。あ。ろ。小。一。計。を。生。し。う。刃。を
引。く。逃。走。れ。ば。土。太。郎。い。よ。勝。は。衆。く。達。し。あ。せ。と。追。ふ。程。は。左。母。二。郎。へ
同。を。揣。て。う。み。や。小。石。を。搔。ね。身。を。振。り。わ。く。破。と。撲。つ。死。破。の。窟。と
怨。む。勢。力。ひ。猛。る。土。太。郎。へ。忽。地。額。を。撲。破。さ。す。と。潰。る。鮮。血。と。共。は。
一。声。苦。と。叫。び。あ。む。仰。ぶ。あ。付。し。う。左。母。二。郎。へ。藉。を。突。く。如。く。走。り。か。

胸前を蹂躪。又。踞居。と。刺。さ。刀。尖。へ。名。詮。自。性。土。小。縫。は。土。太。郎。へ
幾。も。足。を。動。さ。す。身。を。大。の。字。に。う。り。と。さ。ま。息。絶。え。け。り。抑。あ。の
土。太。郎。加。太。郎。井。太。郎。は。豊。嶋。の。三。太。郎。と。呼。ぶ。水。陸。の。悪。根。方。り。
手。来。ま。ぐ。人。を。害。ひ。又。あ。ぐ。物。成。掠。く。娼。酒。賭。奕。の。場。は。遊。び。ト。を。國
法。を。あ。そ。む。と。下。へ。縣。吏。を。肩。と。せ。と。錢。あ。る。と。ん。ハ。鄧。通。が。冊。を。け。移。く。
食。へ。飽。し。と。せ。と。錢。あ。る。と。ん。ハ。喪。家。の。狗。の。如。く。餓。え。と。も。恥。と。思。は。せ。し。
三。兇。と。忌。憚。ら。し。天。罰。あ。小。疎。く。も。又。唯。奸。惡。邪。淫。の。癖。者。細。乾。左
母。二。郎。は。殺。さ。し。一。ハ。毒。を。り。く。毒。を。制。け。る。天。の。配。劑。を。あ。ら。む。と。同。話
休。題。左。母。二。郎。へ。辛。く。土。太。郎。と。擊。果。ん。刃。の。鮮。血。を。推。拭。ふ。生。血。を。不
引。く。白。露。は。濡。り。あ。あ。ま。と。この。刀。の。才。持。は。感。嘆。浅。く。と。磨。こ。を
生。死。存。亡。の。際。小。ま。と。心。え。つ。と。現。る。衣。の。濕。り。と。野。火。の。滅。し。村。雨。の

刃より成と雷より再び入つる刀の威徳ハ仕官の榜条とて戴れど
韃小納め二尺帯を引列衣と腕の浅痕を括留滅果んとせし坑火は
残る柴を投入し又烈々と燃上りて風のまゝく彼此を草堂に移れ
いづれ白昼の如く明るしける。かく左二郎ハ轎の内ハ伏沈む濱路を去る
扶出しくその縛を釋捨し又潜然と沈む傷乃株は元成かけやよ
濱路ともかくて膚縁位とて後へや久きを命を的の由美村より。こ乃
山越は二人の大敵を蔵せしを誰がるといひる皆是れ兄弟なる
をや畢竟浅痕を負つるのゆゑ恙あけはバトをよけしこれ死なばあ
男も亦ハやより辛苦受んかまでぞふれをるぞ強顔へりてあ
さふちん男が心かり親達の密裁を告る夜神宮河の俣獵を竊は
信乃を害せんとも誘ひ出せりめあへ。かき六基六仕官が不覺は水小落

るも。實ハ信乃を誑引入る。水中ハ殺さんぬのと然とも信乃ハ水煉をよく
縮めりやありつらん土太郎又ハ敵一ぬを仕官ハ阿容とて渠は抱き
弟の母が竊は吾侍の宿所を訪る。信乃を許我へ起行する意中の
機密を物より。初里人ハ媒妁せられて信乃ハ濱路を妻せんといひつけ
るとは仕官殿が秘藏の一刀を臂牽出ぬ取らせると今中明く地は
返せといふ必推辞んよ。如此とて謀る。その折あふ船中より信乃の
一刀を仕官殿の刀より掲替る。彼一刀ハ畧代とて其れを
信乃ハ恙なくとも。這奴許我へ赴れ。何更を。えい。えい。免恩の罪を
縛首刎らんとせん相謀とてふあふちん男ハ濱路を妻せし職
祿副は譲らんとし推辞して遂は密裁は衆合船件の刀を掲替

一。ちんを妻せんとす。そのまゝ。いふ。奸曲。小娘。へき。かゝる。
 此。彼。両。刀。と。掲。替。人。と。せし。信。乃。が。刀。の。中。心。よ。り。忽。然。と。水。氣。雷。を。
 夏。な。な。寒。た。焼。刃。の。靈。光。い。と。得。た。宝。は。愛。て。つ。く。視。つ。熟。思。へ。前。の。
 管。領。持。氏。朝。臣。の。重。宝。小。村。兩。と。い。ふ。宝。刀。あり。その。刃。鞘。を。出。き。お。の。つ。ふ。
 水。氣。雷。を。殺。氣。を。含。ま。く。打。振。ま。へ。刀。尖。ま。と。生。る。水。挾。霧。乃。如。く。散。乱。
 信。乃。は。信。乃。の。父。匠。作。共。侶。は。春。王。安。王。は。俱。に。結。
 成。は。金。城。せし。と。い。ふ。この。刀。を。持。氏。より。西。公。達。小。傳。を。春。王。安。王。率。
 志。の。後。番。作。竊。は。携。く。大。塚。に。退。隱。し。彼。人。彼。に。今。ハ。信。乃。が。佩。
 る。小。疑。ひ。な。し。か。く。得。た。名。刀。を。其。官。づ。れ。が。小。落。さ。俗。よ。い。猫。小。黄。金。
 ちん。且。彼。夫。婦。が。欲。ま。す。所。は。我。愛。し。く。この。刀。を。掲。替。せ。し。ゆ。ハ。の。を。

この刀を畧せん。みふくも我愛はつた。ちまたも軟耳言も遷る。かゝるは鄙言。毒を食ひ。血まじく。餅まとい。今宵のふふと。思ひかけ。信乃が刀を。刀室小納言。又日。刀は莊官の刀室は納め。二合より。刀を。或三方。かゝく。且そのやうを。刀を。莊官夫婦へ約束の。脣も。乾ぬ程。陣代。宮六は。婚縁を。結び。一日。由。今宵の。背へ。腹を。悔しく。形あり。人を殺し。く。思ひ。決め。思ひ。心。命は。換る。り。なれば。より。あ。めん。男を。お。ま。憎し。と。思。人。恨を。い。ぐ。怒。復。志。致。幼。推。馴。染。は。羈。信。乃。は。実。情。を。盡。く。流。は。隨。は。落。花。の。如。し。渠。の。め。く。ま。る。あ。く。あ。つ。と。あ。れ。の。そ。う。其。い。試。せ。宝。刀。の。奇。特。土。太。郎。あ。を。知。り。と。れ。野。火。の。風。く。村。雨。の。大。刀。の。う。ち。水。氣。は。よ。し。華。洛。こ。上。ア。ま。く。この。宝。刀。を。室。町。殿。は。敵。は。數。百。貫。の。主。と。

ある立身疑ひうれあへし。海とたへん月をも奥まゝと唱さや。ヨメの人。冊
廿八回 仇代罵く濱路節は死を
族を認て忠與故代譚る

濱路ハ波禁吏むよ養親の奸曲と細乾が邪智をせり。同ふそめ
恨のあつて。宵渡さる有為轉變假寐さる。遠離る。きのけふあつ旅
衣良人の難美を想像る。玉の緒の絶る。絶よ。いづ。宝刀をとり復
く。夢さるるもこれらのよを告ぐ。丈夫は遠手人と。思へらるる。將天く
中をく。涙をかき。驚き。埋る。縛られ。おく。走られ。辱め。恨め。とのそ
る。い。あ。ぬ。人。は。あ。り。と。く。伴。る。も。過。世。る。脱。し。ぬ。契。あ。る。あ。る。べ。犬。塚。ぬ。い

の大刀の。ハ。い。く。も。耳。熟。目。熟。と。け。り。彼。人。憤。う。け。色。い。や。火。急。の。折。り
も。謀。ら。る。べ。く。ハ。あ。る。と。う。そ。を。轉。く。由。搦。替。し。と。宣。言。さ。し。候。う。る。と。う。さ。が
進。退。究。り。は。る。初。ハ。情。り。と。あ。る。と。い。ふ。と。も。宝。刀。を。掠。め。一。人。と。も。あ。り。つ
俱。小。走。ま。る。と。う。と。二。親。は。又。疑。ま。ん。か。れ。ば。か。つ。家。あ。る。況。く。その。性
いと。正。し。れ。犬。塚。ぬ。お。容。れ。ん。や。ま。づ。その。刃。を。見。せ。め。人。と。い。は。れ。て。あ。る。と。も
点。頭。さ。る。あ。へ。理。り。を。信。乃。ハ。心。よ。由。お。せ。た。と。も。伯。母。丈。を。救。入。と。く。續。く。入
水。さ。る。折。船。は。あ。る。と。う。吾。俗。一。人。その。刃。を。の。搦。る。と。も。ハ。渠。は。を。く。成
事。あ。り。れ。寔。小。この。村。而。ハ。立。身。の。標。は。あ。る。のみ。あ。る。と。も。妹。奴。の
契。を。固。け。つ。月。下。公。相。は。る。と。う。ま。と。う。か。信。う。る。證。め。を。振。バ。忽。地。水。乳。あ。り。
是。の。刃。の。身。特。り。檢。く。疑。ひ。を。釋。め。人。と。論。し。ん。を。う。引。抜。れ。と。遠。手。を
刃。を。右。心。受。う。ら。ぬ。一。人。さ。う。あ。り。と。丈夫。の。仇。人。と。呼。か。る。声。あ。る。と。も。ハ

突閃々刃の光り小驚れ膝と左へ外へ右へ避沈み拂へ跳越せんとせれば
 かみ潜り後小立を追詰るかうり脱れ烈女の念力悔まぬ死に失せ左
 二郎へあましく怒る小刀引抜たてゝ一と受まがりつけ入るく後路が乳
 下礮と破る破るまで苦と魂消る一声怯む刃を踏落し跳菟く撞相む頭
 髻を膝より引著く。霎時疾視と声あり立北狗奴今さうあひえや
 情欲るはバツを心のどけく慰めと一と賺しゆあてとさう成執念深刃物
 三昧仇入とゆるくさうあてとさう成信乃を忘さうくへ暇をさうせん
 彼せと合へりさうあてと後さう遊女は售るとも身買あひ化骨折る
 トとさうふ已に成ゆを賣物に傷けとさうそれゆ詮あり。飽まふことさふ
 はかり。報ひハ觀面早より殺さうとさうあてとさうあてとさうあてと
 旅宿の後然。慰さうと熱腸を冷人この世の名残ゆさうあてとさうあてと

うけ。つひとへいへさうあてと月のあてとさうあてとさうあてとさうあてと
 大刀搥取る鞘に納めく。腰に帶小刀を大地に衝立てはさうあてとさうあてと
 掛懷中より疊紙より。銀子を撈り出る。頭さうとさうあてとさうあてと
 さうあてとさうあてとさうあてとさうあてとさうあてとさうあてと
 女子とさうあてとさうあてとさうあてとさうあてとさうあてと
 親は相譚と宝刀を掠めく。さうあてとさうあてとさうあてとさうあてと
 大刀悉んと竹よれども本意を以て遂に邪慳の刃日現身の命を預きさうあてと
 人月日ハ照らさうあてとさうあてとさうあてとさうあてとさうあてと
 良人の性方々今さうあてとさうあてとさうあてとさうあてとさうあてと
 善人形さうあてとさうあてとさうあてとさうあてとさうあてとさうあてと

使ハ只名のめい、添臥せむ其の親も胞兄弟も煉馬殿の御内にあること
及又そのめい名をあらとて頼も認むむ年あまの恋しきとをあらめい
去歳ハ煉馬家亡うむその老黨も若黨も皆替れきと世上の風聞も憂ふの
数をして刃の癪えり三重の帯環りもあらを圓塚の野火も共滅てゆく
眞土もあら一独行かうあるふも二親の非余非道とふめめううはけ悪
實に成り九の世をわらうと竭ぬ怒へ後竟はその刃報ざるづれ歎
人ハ恨も刃の辱命も縁の起ハ外あると歎れをえり見ぬまを情あきハ
養親達恋しハ大塚ぬ。こふ魂ハこの山の裾野の沼の水鳥とよりけ許
我へ束の間よめく良人よ告まほ。よふ惜うぬ命尚惜む恩愛節
ぎの爲再び丈夫ふあ日や其の親の存亡をあらうあうんその日まど
有懸し惜き命ぞう。あら甲夜あらふこの山を踰り來ぬる人あら助
神もあれ世歎と恨るはうまう小思ひあましくわれ口説く言葉の露を
結びあはれ腕たハ女子あらなり左母二郎ハ欠伸し。鎖子著し鼻推
拭ひ。あらたうしん諄言を謂をすけハ有。親の爲めを孝女でも
信乃が爲る貞女でも。こふあらむらも命を惜むも夫の爲と
ハハハと助け。寔は至蓋の殺生も皆已が心う。腕くんえくも
はうハ命根あらと灸所の深癢も。長物語ハ感心。褒美ふハ只一ト
あひ。この世の暇を取せんぞ。いびくとひうけく。食う鎖子を還し。懷
夾め。地上は樹る小刀を抜き。閃りとんせく。その直。血塗序。この刃で
とらふ。けきと等。一等飽ま。潰路ハ念成被る村雨。引導。せん
教。うむむとあざ笑く。小刀を拭ひ。壁に納め。腰に帯又村雨の刀を引
提。親念せよとまかれハ潰路ハ驛が。頭を搥。縦仇人のめ死を九丈夫の

神もあれ世歎と恨るはうまう小思ひあましくわれ口説く言葉の露を
結びあはれ腕たハ女子あらなり左母二郎ハ欠伸し。鎖子著し鼻推
拭ひ。あらたうしん諄言を謂をすけハ有。親の爲めを孝女でも
信乃が爲る貞女でも。こふあらむらも命を惜むも夫の爲と
ハハハと助け。寔は至蓋の殺生も皆已が心う。腕くんえくも
はうハ命根あらと灸所の深癢も。長物語ハ感心。褒美ふハ只一ト
あひ。この世の暇を取せんぞ。いびくとひうけく。食う鎖子を還し。懷
夾め。地上は樹る小刀を抜き。閃りとんせく。その直。血塗序。この刃で
とらふ。けきと等。一等飽ま。潰路ハ念成被る村雨。引導。せん
教。うむむとあざ笑く。小刀を拭ひ。壁に納め。腰に帯又村雨の刀を引
提。親念せよとまかれハ潰路ハ驛が。頭を搥。縦仇人のめ死を九丈夫の

刃ふかゝるハ本望。我ハ左母二郎。汝ハ亦遠く。寂期ハかくの如く。あつんと
いせも果と眼を腫。憎た女が難言。息の根。輾んと引著。胸前刺ん
と見。刃の光。先。火定の坑の邊。誰と。打。焼
の鋭。銀。左母二郎。左の乳下。裏。打。灸所の痛。火
雲時。堪。大刀。落。苦。叫。声。共。仰。又。怪む
坑。忽。然。立。頭。是。則。別。人。火。定。終。
示。寂。寞。道。人。肩。柳。初。異。形。容。亦。是。甚。磨。打。拾。
但。見。舌。舌。南。蠻。鐵。錐。纏。身。腹。甲。透。間。須。臾。細。蟄。
生。蜘蛛。似。往。唐。織。段。終。筋。廣。袖。單。衣。裾。短。被。
秋。葉。流。花。泉。如。腰。朱。鞘。大。刀。踏。足。杖。藁。の
厚。鞋。穿。大。平。金。の。細。密。針。十。五。頭。の。櫛。濃。紫。の。圓。括。乃

帶。髻。高。二。統。齡。尚。青。年。二。十。左。右。小。や。人。眉。秀。眼。清。く。
色。素。唇。朱。く。耳。厚。く。齒。細。小。月。額。の。迹。長。く。生。る。髪。烏。く。
髻。蒼。かり。その。志。望。善。乎。惡。乎。その。行。法。正。乎。邪。乎。分。解。せ。れ
い。一。癖。あ。る。面。塊。九。庸。と。見。え。け。り。當。下。寂。寞。肩。柳。ハ。左。邊
右。邊。を。見。え。く。徐。歩。と。程。左。母。二。郎。ハ。呼。吸。環。會。と。敵。面。つ。ね。
と。見。え。け。立。上。銚。引。拔。捨。刀。を。杖。身。を。起。く。躍。と。移。ん。と
進。む。を。ち。ん。の。些。由。驢。を。彼。此。雲。時。遠。達。て。駢。馳。衝。と。入。く。
矢。庭。刀。を。奪。取。り。身。を。む。う。と。礮。と。砍。る。拳。の。牙。左。母。二。郎。ハ。筋。斗。を
撲。倒。と。肩。柳。これ。ハ。目。を。け。頻。水。氣。立。沖。る。刀。の。鞘。を。推。立。く。
刀。尖。より。鐔。下。ま。瞬。も。信。と。見。く。現。音。小。竹。村。雨。乃。宝。劍。拔。玉。散。
露。軟。雷。軟。奔。人。妙。焼。刃。の。盡。如。天。虹。蜺。の。引。く。如。地。清。泉。の。流。く。

似より豊城三尺の氷宮一函の霜寢よ世の稀なるべし神龍こゝかぬ
雲は吟に鬼魅この故に夜哭ん今もよけりこの名刀こゝかぬ入る
復讐の素懷を遂げた時到来の秋奇を奇と左の秘し右の秘して
又さういふとも飽む嘆賞の外は餘念はるるけし案下某生再説額
この朝信は別れくつと後へ引き歩果敢てをさうも
盛暑の時るに樹陰水に彼此は休ひ又走る千佳河を渡を比日を
暮果に途いと暗に迷ふ程にわがぬをいふてうね板く駒込村乃
こゝへ来るふふ心つたへ立戻ると途は損あり本郷坂を横
きりく礫川よりとふふ身は假傷造らんうとなく迂路を月の
光をさるそよけれと吐裏小言思ふ初更過る比及は圓塚山を越る
るん火定めると途よく笑ふ茶毘のいまだ滅びしその遮明かりけふと見

れは鮮血は塗れつ。けしる男女あり又白刃をひか合ふ一個の癡者立在る
中をさめめと端々進む松の樹蔭は躲ひくその為体を窺ひける
程は肩柳の鞭より揚る刃を納めより臥る横路はほろふつひをさる引
起し遠く懐中より薬をとり口小衛女子ことゆ結る声も薬もき
ゆるやんは怪しめ抱ふうち驚き只管は放さんと胸懐は肩柳の
るはゆを放めどいまだ縁故を告む。姓名を告むは仇秋賊と疑ひく
驚かぬせん。おそむもせん深處あるも灸所はあま心を鎮く。けしる
るをさる今般小志願を遂すとゆれ息を吻とつたさふあふ何人ぞ
と問ふ顔をうち目成せば我うち見て嘆息し名告ふは憚るふあふねと
夜の繁山外へ入る。ふ小圖らど環會し。けしる則そののふ小異世の兄
山道松忠與とゆふの故ゆふ。玄歳の秋より。女を愛名を更め寂冥院

名刀美
女の存亡
忠義節
操乃環會

額藏

七十四路



松山忠興



左母二郎

九六

肩柳と世に唱ふる假修験の所より火定を示し愚民の錢を促する軍
 用の爲りて君父の讐を報ふあり抑も主君煉馬平左衛門尉倍盛朝
 臣豊嶋平塚の一族共侶池袋より轍をひき父大山負與入道道兼大入
 自餘の老黨負を竭し。眞土のめん供をくけし。煉馬の館中焼敵せられ
 生残るもの絶くあり。これ亦命を惜むるあふねと組む元をく敵ふ逢ね
 不思議な戦場を殺奔て遂に復讐の大義を企家は傳る間諜の秘術隠
 形五道の第二法火遁の術を行ひ。修験者亦容を容或とん。烈火と
 踏み愚民亦信を起させ又或とん。火定は終を示し。錢を召び財成
 聚めて軍用ふえんとほふ火は投ると見せし。火は投らむ。全身焼亡なりと
 ありせし。火の外は姿を隠し。これを名づけ。火遁といふ大約隠形五法
 あり第一を木遁といふ樹は傍とん。形と隠し。敢亦顯さむ。第二を火遁と

いふ火は遇ふとん。形を隠し。とん人よ。とん。第三を土遁といふ此は是
 その足地を踏とん。人よ。形を隠し。とん。壁に没り。穴は隠し。皆土遁の
 一術。第四を金遁といふ。金銀銅鐵をかく。その形を隠し。第五を
 水遁といふ。水は没り。苦まど。又唯一杓の水をゆも。その形を隠し。
 め。これを隠形五道といふ。原是張道陵が通術。唐山は漢末より。今明
 朝もこの術をよくし。あり。とん。我朝は。六條院の仁安寺。同伊豆の
 修禪寺。小唐僧あり。こは独木遁の術を得。後。竊に兵衛佐頼朝に
 傳ふ。石橋山の敗軍。頼朝伏木の虚。又隠し。虎口を遁れ。とん。人
 其の實。木遁の術をわ。とん。又古岡紀一法眼。火遁の術をわ。とん。
 あり。とん。人よ。換け。源牛若丸。その秘書を竊。亦火遁の術をわ。とん。
 文治。高館落城の日。長經既。戦。城は火を放。自焼。とん。塞外。逃。とん。

多かり。こゝより日毎に留るを駈け。こゝろの安き夜ふ日は継ぐ煉馬は
眠著し様子を問はし妻の傾城をたやせ日あまり一兩日とせえ。驚れ
憂哀と。次の日寺へ詣り墓所は香華をのみ向ふ。覆下は當り。小
児の啼声しけし。更驚れ怪しく住持は告ぐ人を聚へ度せ。人あふ
吾倚ハ則甦生して啼とま。其に施く技出。こゝに我んめふ異る。こ
ろ。只肩の痛の上といと黒ぢる。瘰癧生て形牡丹の花に似る。噫痛
をたハ。母は全體既は腐爛。いふとあまなけ。舊のてく小埋。事
父ハ吾倚を携り。主君はせえ。俄頃奴婢を召上。折父は對ひて箇
の越後告る。この年吾倚ハ六歳の奴婢を聚會ら。折父は對ひて箇
様箇様如此。このふより母ハ非命。世に去る。吾倚ハ合葬せ。仇ハ
則黑白を成資。瘰癧者ハ錠庵と告。父ハ再び驚れ怒。即

座は黑白を縛め。みづろ鞠問を。ちく陳。物ハ憑て。いせ
せ。小児る。告知明白。竟脱。路のなれば黑白ハ罪ハ伏。これ
より父ハ更主君は訴。某甲某乙。けり。錠庵ハ捕。責問。首伏の趣も
黑白と異なる。けし。此彼齊一法の。小斬罪。梟首。父の怒。正
月ハ二歳の女の子。母大逆無道。絶。生涯不通の。幾を。さ
づ。め。取。せん。その人を求め。外聞を。世。忌。四十二の
二才児。い。養育の料。永樂錢七貫文を。大塚の村長墓。六
の。小養ひ。せ。年十二の春母の七回忌の折。父の告。父の現。六才。黒白ハ惡事を告。巨細。懐舊。乃。渡

